



2012年に中村電設株式会社へ中途入社した出来田泰二。前職から電気工事に携わり、大阪府や和歌山県、兵庫県など、関西地方を中心にさまざまな現場を経験してきた。中村電設に入社後は、これまで培ったスキルを活かして活躍し、社長の右腕として働くだけでなく、周囲からも信頼を寄せられている。社内報の巻頭インタビューへの登場は、今回で2回目。前回と心構えが変わった点や最近の社内の雰囲気などを聞きながら、特に注力していることに迫る。

今、大事にしているのはコミュニケーション

入社当時、出来田は品質やスケジュールに余裕を持った進行に注力していた。現在も現場の取り

組み方に変わりはないが、品質やスケジュール以外で特に意識するようになったのが、一緒に働く仲間とのコミュニケーションだ。電気工事の仕事は、決して自分1人で進められるものではない。「この工事は、このようにしたほうが速い」など、お互いにアイデアを出し合うことで、より高品質でスピーディーな工事が実現する。

「現場で一番重要なのは、お互いに助け合うことではないでしょうか。私も気づいた点があれば意見を伝えますし、逆にアドバイスをもらうこともあります。中村電設には、過剰な上下関係やしごらみはありません。とても働きやすく、スキルアップできる環境だと思います」。

こうして常に意見交換や情報共有をしながら、日々業務を遂行しているのである。

仲間と会話を楽しむ有意義な時間

コミュニケーションは、仕事中だけを重視しているわけではない。日常的な挨拶や、仕事の合間に交わす会話も大事にしている。たとえば、朝の体操や昼休憩時。幸いにも、中村電設はアットホームな職場だ。自然と何気ない話題で盛り上がる。

中でも一番和むのが、社員それぞれが担当する業務を終え、事務所に帰ってくる夕方の時間帯だ。ときにはお菓子をつまみながら、みんなで一緒に1日を振り返る。事案の共有などもできるため、有意義な時間だという。

熱中症対策をしながら臨む現場

最近、出来田は日本製鉄株式会社の現場を任されている。間にエージェント会社が入らない、直請け案件だ。プレッシャーを感じながら仕事を進めているが、会社にもたらす利益は大きく、気を引き締めて作業に取り組んでいる。

しかし、真夏の現場の環境は厳しい。この季節は暑さで注意力が散漫になる危険があり、1年の中でも特に注意しなければならない。しっかりと熱中症対策をして、事故防止に努めている。自分自身だけでなく、周囲のメンバーの顔色も見ながら適宜声をかけたり、休憩を挟んだりして、管理しながら進めているのだ。

より働きやすい環境を整える

中村電設に限らず、この業界全体に共通する課題として挙げられるのが「人材不足」である。出来田も、1人でも多くの若手社員を確保したいと

考えている。若手社員が増えれば、今まで以上に活気にあふれ、多くの案件を受注できるに違いないからである。

出来田が今、新入社員が長く働き続けてくれるように尽力しているのが雰囲気づくり。朝起きたとき、「会社に行きたくない」と思わないような居心地のよさが必要不可欠だと思っている。新しく入ったメンバーには、仕事を早く覚えるよりも自分の居場所を確保してほしい。もちろん、自分も先輩社員として温かく受け入れるつもりだ。

「これまでお世話になった上司や先輩社員にもらったように、後輩社員にとっても働きやすい会社を目指していきます。真摯な姿勢で仕事と向き合ってくれる方に、ぜひ入社してほしいと思っています」。

仲間たちとお互いに支え合いながら、今日も現場に立つ出来田。これからも中村電設の未来について模索し、挑み続ける勇姿を見せてくれるに違いない。



改めて振り返る！

2024年パリオリンピック

皆さんはパリオリンピックの中継をご覧になったでしょうか？試合の結果が気になり、つい夜ふかししてしまったという方もいらっしゃるかもしれません。今回は日本選手団の活躍について、改めて振り返っていきます。忙しくて見られなかったという方も、ぜひ一緒に結果を共有しましょう！

17日間を全力で戦い抜いた日本選手団

20個の金メダルを含む、計45個のメダルを獲得！

フランスのパリでは、100年ぶりの開催となった2024年オリンピック。無観客での開催だった前回の東京大会にはなかった熱い声援が、競技会場を震わせました。今回、日本選手団は金メダル20個、銀メダル12個、銅メダル13個、計45個のメダルを獲得。海外で開かれた大会では、今回が過去最多となります。日本選

手団の尾縣貢団長は8月11日の総括記者会見にて、金メダルの多さに言及。日本選手の勝負強さをアピールしました。また、「『初』が付く種目のメダルが多かったことは大きな成果」とも。最後は4年後に控えるロサンゼルスオリンピックに向けて「早い段階から準備していきたい」と語っていました。

今回獲得したメダルの中から、「初」が付くものや、特筆すべき記録に関わるものをピックアップしてみました。皆さんはいくつ知っていますか？中継を見ていた方は、ぜひ試合の様子を思い出しながらご覧ください！

日本選手団のメダルの記録

金メダル 20個

陸上女子やり投げ

●北口榛花選手がフィールド種目では日本の女子選手で初めて金メダルを獲得

柔道

●永瀬貴規選手がオリンピック史上初となる男子81kg級での2連覇を達成
●角田夏実選手が女子48kg級で今大会最初金メダルを獲得

体操

●岡慎之助選手が個人総合で金メダルを獲得したほか、52年ぶりとなる三冠を達成

レスリング

●日下尚選手が男子グレコローマンスタイル77kg級で金メダルを獲得。日本のレスリング史上、最重量級のメダリストに

女子レスリング

●女子レスリングチームが日本勢で初めて、全6階級でメダルを獲得(金4、銅2)

フェンシング

●加納虹輝選手がエペ男子個人で、日本勢としては初の金メダルを獲得
●男子フルール団体で、日本勢としては初の金メダルを獲得

ブレイキン

●湯浅亜実選手が新競技「ブレイキン」で金メダルを獲得し、初代女王の座に

スケートボード

●吉沢恋選手が女子ストリートで今大会最年少の金メダリストに

銀メダル 12個

近代五種

●佐藤大宗選手が日本勢としては初のメダルを獲得

男子10m高飛込

●玉井陸斗選手が日本勢としては初のメダルを獲得

銅メダル 13個

総合馬術団体

●馬術競技における日本勢のメダル獲得は92年ぶり、団体では史上初。メンバー4人の平均年齢は41.5歳。自らを「初老ジャパン」と名乗り、SNSなどで話題を集めた

フェンシング

●女子フルール団体で銅メダルを獲得。フェンシング女子種目でのメダル獲得は日本人初

Los Angeles 次の開催は

2028年ロサンゼルスオリンピック

野球・ソフトボールが復活！

ロサンゼルスオリンピックでは野球・ソフトボール、フライングフットボール、クリケット、ラクロス、スカッシュの5競技が追加されることになりました。特に野球・ソフトボールについては、東京大会で日本が金メダルを獲得しているだけに、大いに期待が高まります。日本選手団は、今大会以上のメダルを獲得できるのでしょうか？4年後の開催を楽しみに待ちましょう！